

職員による自己評価

A環境面
 バリアフリーではないが特に不自由していない。
 子供たちの成長と共にスペースの確保

B児童への支援内容
 学習と曜日別プログラムは保護者の方から評判が良い

C関係機関との連携
 療育センターは情報を共有している。
 送迎時の対応を再確認している。

D保護者への説明責任・信頼関係
 契約時や日々の連絡帳、面談などで確認、様子などを話している。

E非常対応
 特になし。

保護者による評価

A環境面
 子供が成長しているせいか少し狭く感じる。

B児童への支援内容
 活動内容が固定化されず満足している。
 学習面でのフォローが心強い。

C事業所からの情報発信
 連絡帳で日々の様子を教えてくれる。

D非常対応
 避難訓練の実施状況が曖昧である。

事業所内での分析

【共通点】
 連絡帳等でしっかりと連携が取れている。

【相違点】
 避難訓練の実施が曖昧である。
 保護者側から指導室訓練室が狭いのではないかという指摘を受ける。

分析・検討してみても…

事業所の強み

毎日の通所でも、プログラムが様々なので、長い時間居ても楽しむことができる。
日々の学習時間が子供に苦痛なく、でも楽しく行うことができるような教室作りをしている。
親との連携がしっかりとれる。
指導員が子供目線になって一緒に過ごすことができる。

事業所の改善点

避難訓練の実施状況の周知がなされていない。
ビルが古いため、バリアフリー等の気遣いが無いので何かいい方法はないか。
より良い療育を何かすることは出来ないか。

事業所の改善への取り組み

避難訓練等を実施する際には事前事後報告を徹底する。又、色々な曜日で実施できるようにすることにより全児童に参加してもらえるよう工夫する。
衛生面に気を付け安心して過ごせる場にする。
より良い療育を行えるよう、指導員研修を毎月行い、社外の研修にも積極的に参加するようにする。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～